



【Microsoft Power Apps】 自動生成アプリの作成・連携手順

2025年8月31日

改訂履歴

版数	発行日	改訂内容
第1版	2025年8月31日	初版発行

本資料の内容は 2025/8/31 時点のものです。製品のアップデートにより変更となる場合がございます旨ご了承ください。

Agenda

1. 前提情報

1. 用語集
2. Microsoft Power Appsとは
 1. Microsoft Power Apps の概要
3. アプリ作成における前提知識
 1. 作成できるアプリの種類
 2. 環境の種類と用途
 3. 共有・利用権限
 4. データ連携の仕組み

4. 設定手順

1. 前提条件
2. SharePointリスト作成
3. 環境作成
4. アプリ作成
5. アプリのカスタマイズ
6. 共有・公開



1. 前提情報

1.1. 用語集

本書で使用する用語及び略称を以下の通り定義します。

No.	用語	説明
1	Power Platform	Microsoft が提供する業務アプリ開発・分析・自動化の統合サービス。Power Apps、Power Automate、Power BI、Power Virtual Agents などを含みます。
2	Dataverse	Power Platformの共通データプラットフォーム。アプリやフローで扱うデータを、安全かつスケーラブルに保存・管理できる。テーブル形式でデータを保持し、関係性やロールベースのアクセス制御も可能。Microsoft 365やDynamics 365とネイティブ連携します。
3	HTML	HTML (HyperText Markup Language) はウェブのもっとも基本的な構成要素です。HTML はウェブページの基本レイアウトに従ってウェブページのコンテンツを記述し定義するものです。HTML に隣接する他の技術としては、ウェブページの表示や表現を記述するもの (CSS) または機能や振る舞いを記述するもの (JavaScript) があります。
4	CSS	カスケーディングスタイルシート (Cascading Style Sheets、CSS) はスタイルシート言語であり、HTML や XML (派生言語である SVG、MathML、XHTML などを含む) で記述された文書の体裁や見栄えを表現するために用いられます。CSS は、要素が画面上で (あるいは紙や音声といった別のメディア上で) どのように表現されるのかを定義します。
5	JavaScript	JavaScript (ジャバスクリプト) とは、主にWebアプリ開発で使われるプログラミング言語です。Webページ上に動きをつけたり、ユーザーの操作に合わせて表示項目を変化させるなどWebブラウザ上での表現に特化しているのが特徴です。JavaScriptはクライアントサイドと呼ばれるブラウザ側のプログラムの作成に多く使われています。

1.1. 用語集

本書で使用する用語及び略称を以下の通り定義します。

No.	用語	説明
6	Python	Python（パイソン）はオープンソースのプログラミング言語の一つで、1991年に開発されました。シンプルで読みやすい構文をもち、数値計算からWebアプリ開発、AI開発など幅広い用途で利用できることが特徴です。また、豊富なライブラリやフレームワークが多く活用しやすいことや、オープンソースで大規模な開発者コミュニティが存在していることから、初心者から専門家まで幅広い層に人気があります。
7	Salesforce	クラウド上で提供される顧客管理（CRM）システム。 営業活動の記録、案件の進捗管理、顧客情報の一元管理などを行うことができ、世界的に広く使われています。
8	Dynamics 365	Dynamics 365 は、Microsoft が提供する統合型のビジネスアプリケーションスイートです。企業の業務全体を支援するため、CRM（顧客関係管理）やSFA（営業支援）、ERP（基幹業務管理）をはじめ、マーケティング、顧客サービス、フィールドサービス、財務、サプライチェーンなど、さまざまな業務領域をカバーしています。これらの機能はクラウドベースで提供されており、必要な機能を柔軟に組み合わせることで、自社のビジネスモデルに最適なシステム構築が可能です。また、Microsoft 365 や Power Platform との高い連携性により、業務の自動化やデータ活用を促進し、生産性向上・業務効率化を強力に支援します。
9	REST API	インターネット経由でシステム同士がデータや機能をやり取りするための仕組み。Web標準の方法で呼び出せるため、多くのサービスが対応しています。
10	SQL	データベースに対して「検索」「追加」「更新」などを行うための言語。Excelの関数のように、データを自在に操作できます。

1.1. 用語集

本書で使用する用語及び略称を以下の通り定義します。

No.	用語	説明
11	Oracle	世界的に利用されている商用のデータベース製品。大規模システムや金融機関などで多く利用される。
12	オンプレミスゲートウェイ	Microsoftが無償提供する仲介ソフトで、オンプレミス環境と Microsoft クラウドサービス（Power Apps, Power Automate, Power BI, Azure Logic Apps など）を安全に接続するためのブリッジ（中継役）です。社内のサーバーやPCにインストールして構成することで利用でき、クラウド上の Power Apps から直接オンプレミスのデータベースへ接続するリスクを避けつつ、ゲートウェイが「安全な通信チャネル」を確立し、オンプレのデータにアクセスできるようにします。
13	Poc	「PoC」は、日本語で「概念実証」や「コンセプト実証」と訳される「Proof of Concept」の頭文字をとったものです。新しい技術や概念、理論などが実現可能かどうかをデモンストレーションすることで、技術にどのような効果、効用があるか検証する手続きも含まれます。
14	SAP	ドイツのSAP社が提供する基幹業務システム（ERP）の総称。会計・人事・販売・在庫管理など企業の主要業務を一元管理するために利用され、Power Appsでは専用コネクタを通じてデータ連携が可能。
15	レスポンス	PC、タブレット、スマートフォンなど、異なる画面サイズに合わせてWebサイトの表示を調整する手法です。主にレスポンスWebデザインとして知られ、CSSやメディアクエリを活用して、画面幅に応じてレイアウトや要素の配置を柔軟に変化・対応させることで、ユーザーは異なるデバイスでも快適にWebサイトを閲覧することができます。

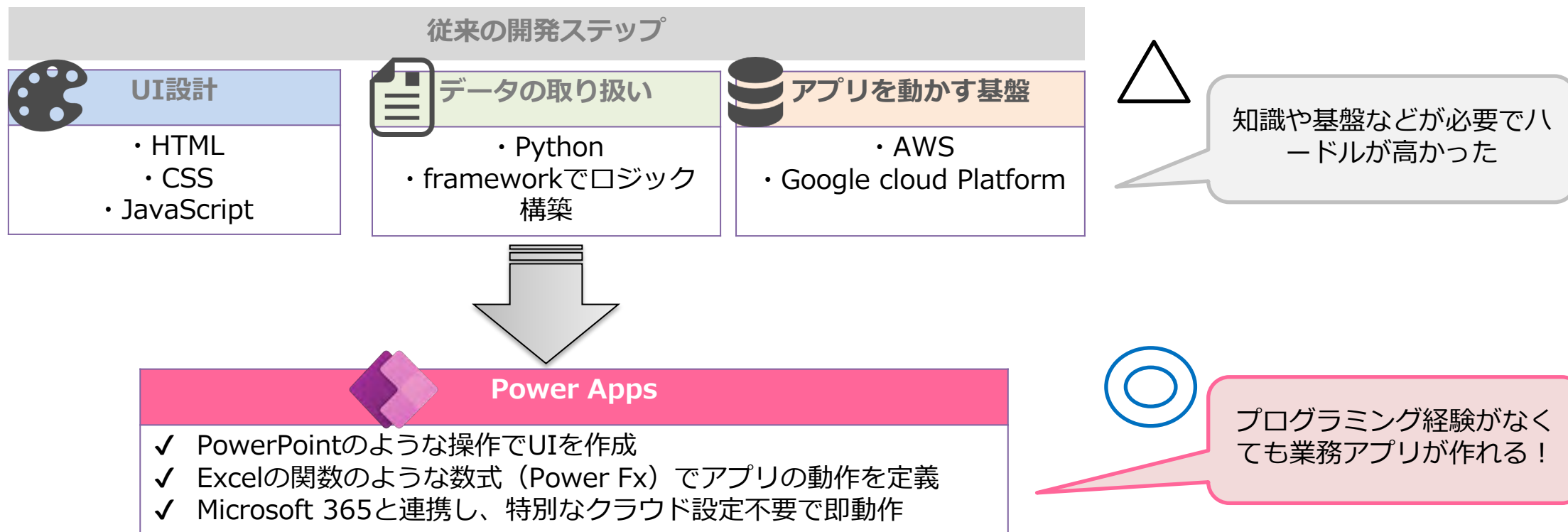


2. Microsoft Power Appsとは

2.1. Microsoft Power Appsの概要

Microsoft Power Apps（以下、Power Apps）は、Microsoftが提供するPower Platformの主要サービスのひとつであり、ローコード開発プラットフォームです。プログラミングの専門知識がなくても、組織で利用できる業務アプリを簡単に作成できます。

Power Appsでは、アプリ・サービス・コネクタ・Dataverseなどを組み合わせることで、業務の効率化や自動化を支援します。さらに、Power AppsはPower Platform上で提供されるSaaSサービスであるため、開発環境や実行環境を個別に構築する必要がありません。



ハードルが高いとされる社内でのアプリ開発も、Power Appsならエンジニアでなくてもノーコードでアプリを作ることができます。



3. アプリ作成における前提知識

3.1. 作成できるアプリの種類

Power Apps で作成できるアプリは 自由度の高い「**キャンバスアプリ**」と、データ主導の「**モデル駆動型アプリ**」 の2種類です。

■**キャンバスアプリ**：キャンバス アプリは、空白のキャンバス上に自由にデザインしたインターフェイスを作成し、200以上のデータソースに接続できるアプリです。Web、モバイル、タブレット向けに構築でき、柔軟な操作性とデザイン性が特徴です。

アプリはSharePoint リスト、Power BI ダッシュボード、Dataverse等のようなデータから簡単に作成できます。

■**モデル駆動型アプリ**：モデル駆動型アプリは、Dataverse に保存されたテーブルや関係（データモデル）を基盤に構築されます。

扱うデータ構造を定義することで、フォーム（入力画面）やビュー（一覧画面）が自動生成され、レスポンス性の UI を備えた業務アプリを効率的に作成できます。

また、Dataverse の機能を活用し、Power Apps サイトから短時間でアプリを構成可能です。

項目	キャンバスアプリ	モデル駆動型アプリ
特徴	- 直感的にデザイン可能 - 部品を配置して自由に画面を構築 - 幅広いデータソースを利用可能	- データモデルに基づき自動生成 - 標準化された画面で統一感あり - Dataverse と連携前提
構築方法	ドラッグ&ドロップで画面を作成し、関数で制御。	Dataverse 上のデータを元に画面が自動生成。
デザイン性	自由度が高く、UI を細かく設定可能。	デザインは自動生成で、自由度は低い。
開発スピード	設計・調整に時間がかかる。	デザイン不要で素早く開発可能。
レスポンス対応	モバイル用など異なる画面サイズで利用する場合は手動調整が必要	標準で自動でレスポンス対応
用途例	顧客向けアプリ、デザイン重視の業務アプリ、Excel 活用。	社内の顧客管理・案件管理、業務標準化システム。
適した利用ケース	デザインや UI を重視する場合 既存のデータを柔軟に利用したい場合 Dataverse を使わない場合	開発スピードを重視する場合 データ管理・業務標準化を優先する場合 Dataverse を前提にできる場合

3.2. 環境の種類と用途

環境とは、Power Appsを利用するための作業スペース（領域）のことです。アプリ・フロー・接続情報・データ（Dataverse など）はすべて環境ごとに分かれて管理されます。同じ会社（テナント）の中でも、環境を切り替えることで「開発用」「本番用」といった使い分けが可能となります。環境の作成・管理はPower Platform管理センターから可能です。

環境の種類と用途

■ 既定

- テナントに1つ自動作成される、削除できない運用環境。
- ライセンスを保有するテナント内の全ユーザーがアクセス可能。

■ 実稼働

- 本番環境のことを指します。セキュリティやアクセス制御がしっかり管理される前提です。

■ 開発者

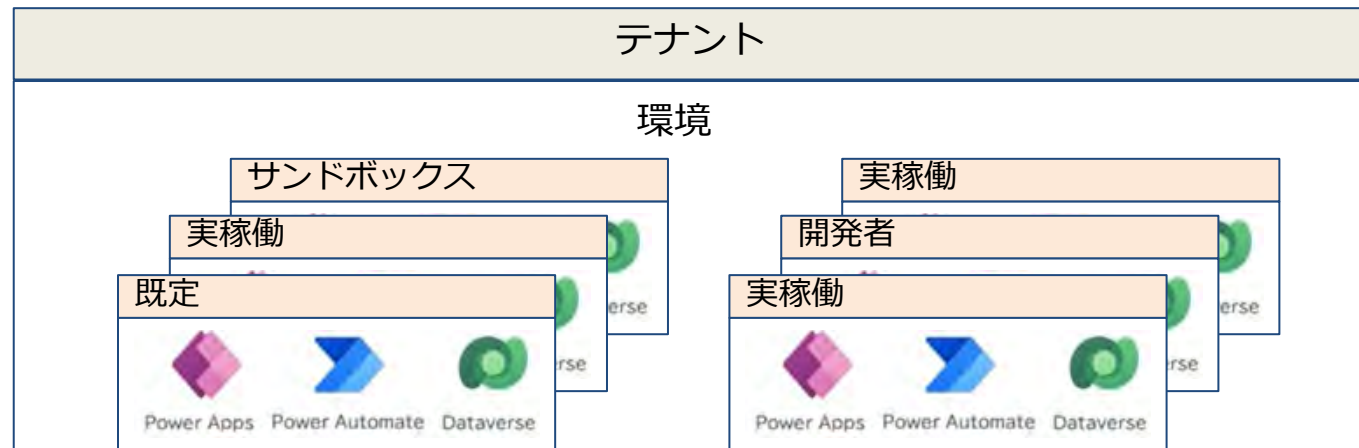
- 個人の学習・開発用の環境。Power Apps開発者プラン（無料）を利用しているユーザーが作れます。
- 主に勉強・検証・施策の用途となります。

■ 試用版

- 30日間限定で利用できる一時的な環境です。
- 機能検証やPoCに利用されます。

■ サンドボックス

- 組織内での開発・テスト用の環境です。
- 本番環境全体をコピーしたり、テスト検証に役立ちます。



3.3. 共有・利用権限

Power Apps で作成したアプリは、利用者に共有してはじめて活用できます。

ただし、「誰がアプリを使うだけの人なのか」、「誰がアプリを編集・管理できる人なのか」を明確に分けて権限を付与することが重要です。

また、アプリ単位での共有に加え、より大きな枠組みである「環境」全体にも権限設定が可能です。

ここでは、アプリ単位と環境単位の2つの権限体系について整理します。

アプリ単位の権限

共同所有者：アプリの編集・更新が可能

ユーザー：アプリの利用のみ可能

※アプリにて設定

環境単位の権限

環境管理者 (Admin)：環境全体を制御（アプリ、接続、Dataverseなど）

環境制作者 (Maker)：アプリやフローを新規作成可能

※PowerPlatform管理センターにて設定

権限まとめ

区分	権限の種類	できること	設定場所	備考
アプリ単位	ユーザー	アプリ利用のみ	アプリの共有画面	営業メンバーなど
アプリ単位	共同所有者	アプリの編集・公開	アプリの共有画面	管理補助者向け
環境単位	環境管理者	環境全体を管理	Power Platform管理センター	システム管理者向け
環境単位	環境製作者	アプリやフローを作成	Power Platform管理センター	開発担当者向け

3.4. データ連携の仕組み

Power Apps では、アプリがさまざまな外部サービスやデータを利用できるように「コネクタ」を通じて接続を行います。

どのようなデータ接続の種類があるのか、コネクタを介した仕組み、そして利用できるデータ格納先の特徴を理解することで、アプリ設計時に適切な選択ができるようになります。

データ接続の種類

コネクタは大きく「標準コネクタ」「プレミアムコネクタ」「カスタムコネクタ」に分類され、それぞれ利用できる範囲やライセンス要件が異なります。

- **標準コネクタ**

- Microsoft 365 (SharePoint, Outlook, Teams)
- Excel (OneDrive/SharePoint) など
- Power Apps基本ライセンスで利用可能

- **プレミアムコネクタ**

- Dataverse, Salesforce, Dynamics 365
- オンプレミスデータ (SQL Server, Oracle, SAP など)
- クラウドから直接、または「オンプレミス データゲートウェイ」を経由して接続
- Power Apps Premiumライセンスが必要

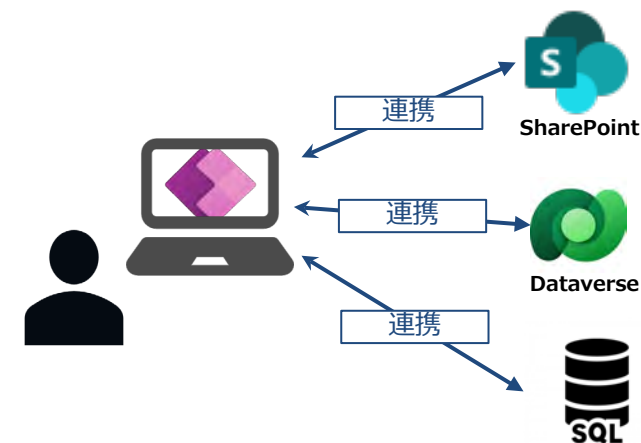
- **カスタムコネクタ :**

- 標準コネクタにないサービス/APIに接続したい場合
- REST API をベースに独自に作成可能
- 利用サービスによって標準・プレミアムが異なる

コネクタ接続の仕組み

コネクタは、アプリとデータソース (SharePoint、Excel、Dataverse、SQL など) の間を仲介する「接続アダプタ」のような役割を持っています。ユーザーはアプリで「SharePoint に接続したい」といった操作を行うだけで、裏側では自動的に対応するコネクタが使われます。

これにより、アプリは複雑な API の呼び出しを意識せずにデータを利用できます。



3.4. データ連携の仕組み

Power Apps はコネクタを通じて、さまざまなデータ格納先と接続できます。
利用する格納先によって、アプリの用途や性能、ライセンス要件が異なります。

データ格納先の種類

データ格納先	特徴	主な用途	備考
SharePointリスト	Microsoft 365 標準機能、権限管理が容易	小規模データ管理、チーム共有	- 標準コネクタで利用可能 - リストの列定義を元に画面が自動生成され、Excelよりも管理アプリ用途に適する
Excel online (OneDrive/SharePointに保存)	手軽に利用可能	管理アプリ、試作段階	Excelテーブルを元に簡易的な画面（ギャラリーやフォーム）が自動生成される
Dataverse	高機能データベース、リレーションや権限管理に対応	業務アプリの本格運用	- プレミアムライセンスが必要 - Dataverse 上のデータを元に画面が自動生成
外部DB (SQL,Oracle等)	既存システムのデータ活用	業務データの統合	多くがプレミアムコネクタ テーブル定義を基に画面を自動生成可能。
外部SaaS (Salesforce 等)	他クラウドサービスとの連携	営業支援、CRM連携	プレミアムコネクタ、またはカスタムコネクタ利用



4.設定手順

4.1. 前提条件

本資料では「営業案件管理」を例に、Power Apps と SharePoint を連携したアプリの作成手順を紹介します。

「現状の課題 → 改善方法 → 具体的な手順」の流れで情報を整理し説明するため、効率的かつ分かりやすく構築を進めることができます。

活用例：営業案件管理アプリ（Power Apps/ SharePoint）

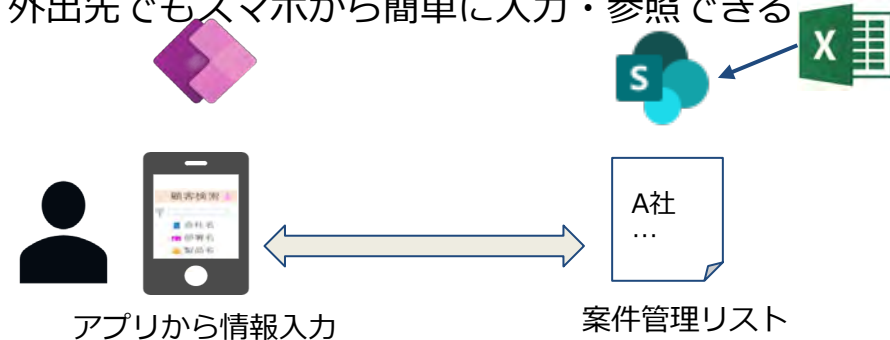
課題

- 営業担当者が「案件管理」をExcelで行っている
- 情報が分散し、最新情報がどれか分かりにくい
- 外出先からは更新・参照が難しい
- スマホで簡単に入力したいニーズがある



Power Appsを使用した改善方法

- SharePointリストを案件管理のデータベースとして直接作成
- Power Apps（キャンバスアプリ）でスマホ対応フォームを自動生成（*次ページにて補足あり）
- SharePointリストを使うことで、常に最新情報を全員でリアルタイム共有可能
- 外出先でもスマホから簡単に入力・参照できる



4.1. 前提条件

補足 : アプリ作成前の検討事項

SharePointリストから自動生成されたフォームは、スマホ画面での利用に対応しており、一覧・詳細・編集画面の基本操作は問題なく行えます。しかし、自動生成アプリは完全なレスポンス対応ではないため、PCやタブレットでの表示や、特に文字サイズ・ボタンサイズ、フォームレイアウトをカスタマイズする場合は、モバイル画面で崩れる可能性があるため、モバイルでの見え方を確認し、必要に応じて調整が必要となります。そのため、アプリを作成する際は、事前にどのデバイス（PC、モバイル、タブレット）で、どのような目的（用途）で使用するのかを明確に決めておくことが重要です。

※スマホ対応のためのカスタマイズのポイントについては「4.5 アプリのカスタマイズ」32～34スライドに説明をしています。

4.1. 前提条件

前提条件

本資料では、**開発者環境でキャンバスアプリを使用し、SharePointリストと連携してモバイル利用を前提とした自動生成アプリを作成する手順を対象としています。**

※Power Appsには主に3通りの作成方法があります。

- ・アプリを一から作成する
- ・データをもとにアプリを作成する（本資料はこちら）
- ・テンプレートから作成する

手順

本書では、大きく以下の手順で解説いたします。



4.2. SharePointリスト作成

SharePointリス
ト作成

環境作成

Power Appsで
アプリ作成

アプリの
カスタマイズ

共有・公開

手順

1. 「+新規」>「リスト」をクリックします。
2. 開始する方法で「リスト」をクリックします。
3. リスト名を入力します。

The screenshot illustrates the process of creating a new list in SharePoint. It shows the 'SharePoint' header, the 'コミュニケーション' (Communication) site, and the 'ホーム' (Home) page. The '+ 新規' (New) button is highlighted with a red box. Below it, the 'リスト' (List) option is selected, also highlighted with a red box. This opens a '開始する方法' (How to get started) dialog. In this dialog, the 'リスト' (List) option is highlighted with a red box. Below the dialog, the 'インポート元' (Import from) section shows 'Excel', 'CSV', and '既存のリスト' (Existing list) options. The 'テンプレート' (Template) section shows a 'リスト' (List) template with a description 'アイテムの分類、追跡、割り当てなど' (Classification, tracking, assignment, etc.). On the right, a preview of the list shows a table with columns and rows. The '案件管理台帳' (Case Management Ledger) title is highlighted with a red box. At the bottom right, there are '作成' (Create) and 'キャンセル' (Cancel) buttons.

4.2. SharePointリスト作成

SharePointリス
ト作成

環境作成

Power Appsで
アプリ作成

アプリの
カスタマイズ

共有・公開

案件管理台帳 ☆

ProjectName	CustomerName	Owner	Status	NextActionDate ①	+ 列の追加
Webサイト改修案件	株式会社A	鈴木	提案中	2025/09/26	
営業支援ツール導入	株式会社B	山田	見積もり提出	2025/09/20	
システム保守契約	株式会社C	田中	受注	2025/09/10	
クラウド移行案件	株式会社D	佐藤	失注	2025/08/21	

手順

4. 「列の追加」から、列を追加します。本手順では以下の列を作成しています。

※列名：（列の種類）

- ProjectName：（テキスト列）
- CustomerName:（テキスト列）
- Owner：（選択肢列）
- Status：（選択肢列）
- NextActionDay：（日付と時刻列）

※列名は半角英数字の表記にしておくことで、Power Appsから参照しやすくなります。後で日本語に変えることもできます。

5. 各列にデータを入力します。

4.3. 環境作成

SharePointリス
ト作成

環境作成

Power Appsで
アプリ作成

アプリの
カスタマイズ

共有・公開

The screenshot shows the Power Platform Management Center interface. The left sidebar contains navigation options: Home, Management (selected), Environment, Data, Products, Power Apps, and Power Automate. The 'Management' section is expanded, showing 'Environment' as a sub-option. The main area displays the 'Environment' management page, which includes a table of environments. The table has columns for 'Environment', 'Type', and 'Status'. The table lists three environments: '開発者' (Developer), '開発者' (Developer), and '既定' (Default). The '開発者' environments are in '実行中' (Running) and '準備完了' (Ready) states, while the '既定' environment is in '準備完了' (Ready) state.

環境	種類	状態
	開発者	実行中
	開発者	準備完了
	既定	準備完了

手順

1. Power Platform管理センターにアクセスします。
2. 「管理」>「環境」をクリックします。
3. 既定の環境や作成している環境が表示されています。新しく開発環境を作成したいので、「+新規」をクリックします

4.3. 環境作成

SharePointリス
ト作成

環境作成

Power Appsで
アプリ作成

アプリの
カスタマイズ

共有・公開

新しい環境

① この操作は次の対象です [容量の制約](#)

名前 *

名前を選択する

これをマネージド環境にする ①

☐ いいえ

グループ

グループを選択

地域 *

日本 - 既定

ローカルの地域では、より迅速にデータにアクセスできます。

種類 ① *

サンドボックス

試用 (サブスクリプションベース)

開発者

実稼働

試用版

サンドボックス

言語 *

日本語 (日本)

この環境のユーザーインターフェイスに使用する既定の言語

通貨 *

JPY (¥)

この通貨をレポートに使用

URL

一意のドメイン名が生成されます。ここをクリックしてカスタムドメインを入力してください

サンプル アプリおよびデータの展開

☐ いいえ

保存 キャンセル

手順

- 環境の設定に必要な情報を入力します。
 - 【名前】：任意
 - 【地域】：既定の[日本]を選択します
 - 【種類】：プルダウンから作成したい環境を選択します。
- 「次へ」をクリックします。
- 既定で以下の内容が入力されています。
 - 【言語】：日本語
 - 【通貨】：JPY(¥)
- 「保存」をクリックします。

4.3. 環境作成

SharePointリス
ト作成

環境作成

Power Appsで
アプリ作成

アプリの
カスタマイズ

共有・公開

十

新規

🔄

最新の情報に更新

🗑️

最近削除された環境

🔍

検索

✔️

新しい環境 **管理者** を正常に作成しました

環境

は、**環境**組織のビジネス データ、アプリ、チャットボット、フローを保存、管理、共有する場所です。環境を**マネージド**にすると、表示とコントロールの性能を高めることができます。

環境	種類	状態	Dataverse	マネージド	地域	リリース	
管理者	...	開発者	準備完了	はい	いいえ	日本	標準
	...	既定	準備完了	はい	いいえ	日本	標準

手順

8. 「開発者」環境が作成できたことを確認します。

4.4. アプリ作成

SharePointリス
ト作成

環境作成

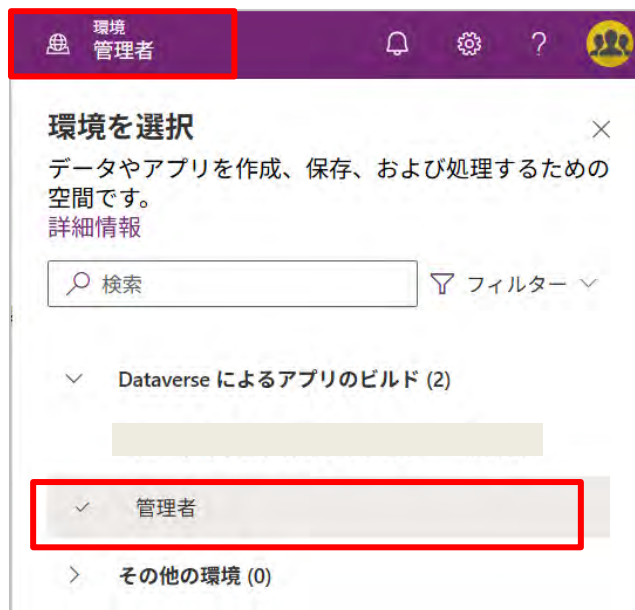
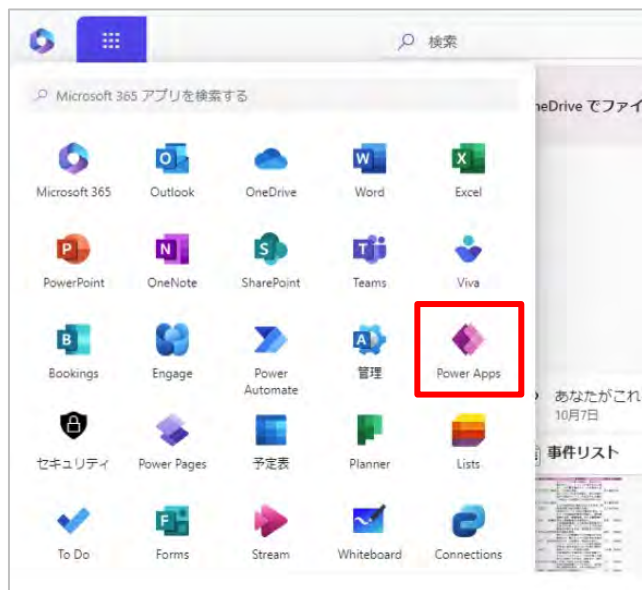
Power Appsで
アプリ作成

アプリの
カスタマイズ

共有・公開

手順

1. 「Microsoft365」にサインインします。
2. ホーム画面左上のアプリランチャーをクリックし、「Power Apps」アイコンを選択します。
3. Power Appsのホーム画面右上の「環境」をクリックすると、環境を選択する画面が表示されます。（何も作成していなければDefault環境のみ表示されます。）ここでは先ほど作成した開発環境を選択します。
4. 選択後、「環境」アイコンの下に、選択した環境名が表示が変わっていることを確認します。



4.4. アプリ作成

SharePointリス
ト作成

環境作成

Power Appsで
アプリ作成

アプリの
カスタマイズ

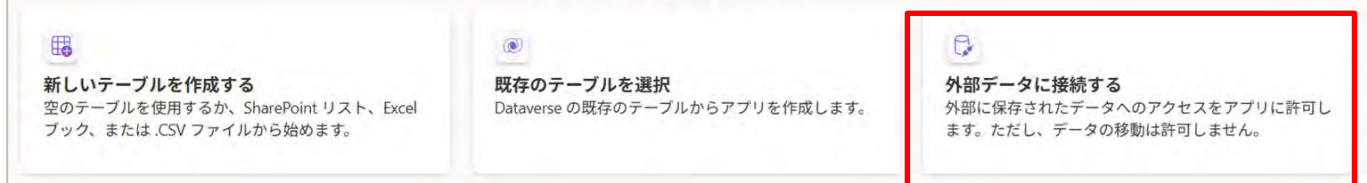
共有・公開

手順

5. Power Appsのホーム画面、左メニューの「+作成」をクリックします。
6. 前項で作成したSharepointリストをもとに作成したいので、「データで開始する」をクリックします。
7. 「外部データに接続する」をクリックします。



その他の方法で開始する



4.4. アプリ作成

SharePointリス
ト作成

環境作成

Power Appsで
アプリ作成

アプリの
カスタマイズ

共有・公開

手順

- データセットを選択して開始します。「Sharepointから」を選択します。
- Sharepointのデータを選択します。まずデータ元のSharepointサイトを選択します。
- [一覧を選択する]から作成したSharePointリストを選択し、「アプリを作成する」をクリックします。
- Power Apps Studioへようこそ、という画面がされました。Power Apps を用いて一度自動生成でどのようなアプリが作成されたのかプレビューで確認したいので、「このアプリのプレビューを確認する」をクリックしてプレビュー画面を表示します。

※Power Apps Studio

Power Apps を用いてアプリを作成・編集する画面を「Power Apps Studio」と呼びます。



4.4. アプリ作成

SharePointリス
ト作成

環境作成

Power Appsで
アプリ作成

アプリの
カスタマイズ

共有・公開

Power Apps | アプリ

環境 管理者

案件管理台帳

検索

+ 新規

Webサイト改修案件
株式会社A
佐藤

営業支援ツール導入
株式会社B
田中

システム保守契約
株式会社C

Webサイト改修案件

Title	Webサイト改修案件	CustomerName	株式会社A
Owner	佐藤	Status	提案中
NextActionDate	2025年9月26日	添付ファイル	添付されているものはありません。

①

②

手順

実際にSharePointリストから自動生成されたアプリのブラウザでのプレビュー画面です。一から作成しなくても、簡単にアプリが作成できます。

12. ①：案件の一覧が表示されます。「+新規」から新しく案件を追加することができます。その上には[検索]バーがあるので、ここから案件を検索することができます。

13. ②：左の案件一覧から選択している案件の詳細情報が表示されています。

4.4. アプリ作成

SharePointリス
ト作成

環境作成

Power Appsで
アプリ作成

アプリの
カスタマイズ

共有・公開

タブレット

モバイル

ブラウザ



電話

Apple iPhone SE 第2世代、第3世代

375 × 667

Apple iPhone 8

375 × 667

Apple iPhone X

375 × 812

Apple iPhone 11

414 × 896

Apple iPhone 12、13、14

390 × 844

カスタム

幅

×

高さ

手順

14. 先ほどはブラウザでのプレビュー画面でしたが、画面右上のアイコンからタブレット、モバイル、ブラウザでのそれぞれのプレビュー画面を確認することができます。
15. モバイルのプレビューを確認したい場合、モバイルアイコンをクリックし、確認したい機種を選択します。

4.4. アプリ作成

SharePointリス
ト作成

環境作成

Power Appsで
アプリ作成

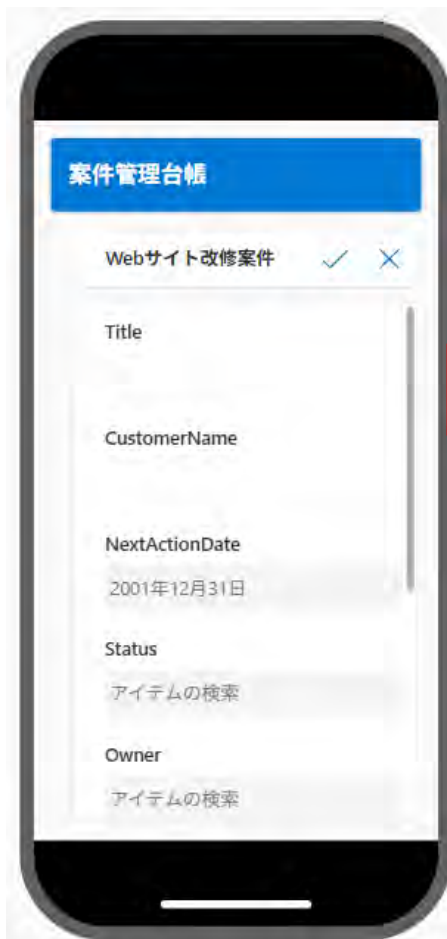
アプリの
カスタマイズ

共有・公開

縦

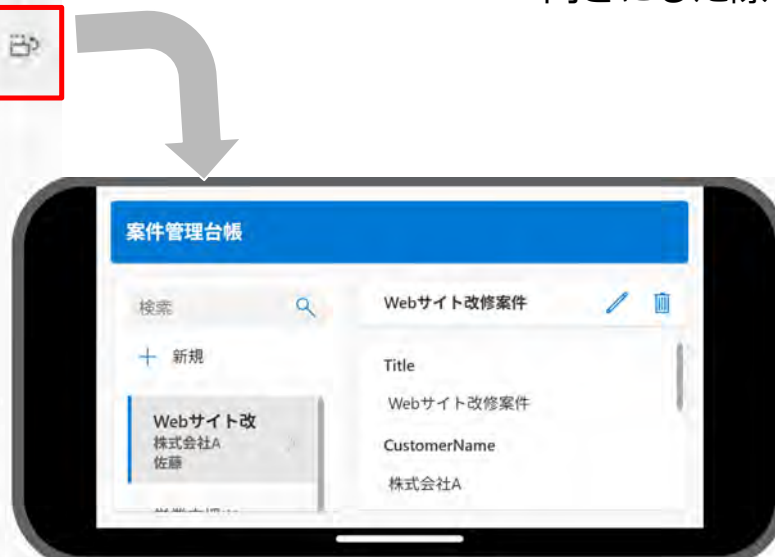


横



手順

16. 選択したモバイル機種種のプレビュー画面が表示されました。
17. ここでも「+新規」をクリックして、案件の情報を入力する画面に遷移するなどの動作確認を行うことができます。
18. また、右横の「向き」アイコンをクリックすると、端末を横向きにした際のプレビュー画面も確認することができます。



4.4. アプリ作成

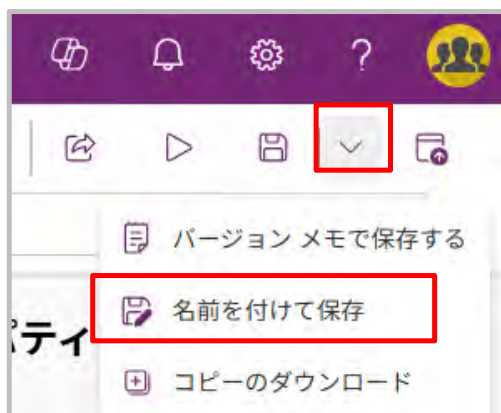
SharePointリス
ト作成

環境作成

Power Appsで
アプリ作成

アプリの
カスタマイズ

共有・公開



手順

19. 一度アプリに名前をつけて保存しておきます。画面右上の「↓」マーク>「名前をつけて保存」をクリックします。
20. 任意のアプリの名前を入力し、「保存」をクリックします。

自動生成されたアプリは、案件の登録・更新・削除といった基本操作がそのまま利用できます。

そのため、Excel（SharePoint）で管理していたデータもすぐにアプリとして活用可能です。

ただし、画面の見やすさや操作性については改善の余地があります。

次のスライドでは、利用者にとって使いやすくするためのカスタマイズを行っていきます。

4.5. アプリのカスタマイズ

SharePointリス
ト作成

環境作成

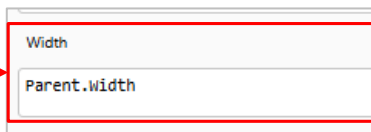
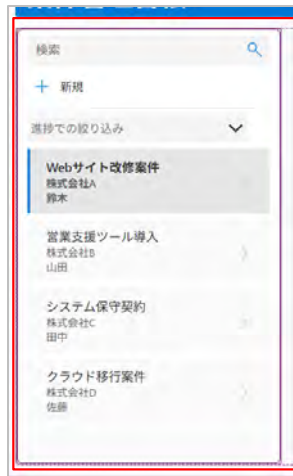
Power Appsで
アプリ作成

アプリの
カスタマイズ

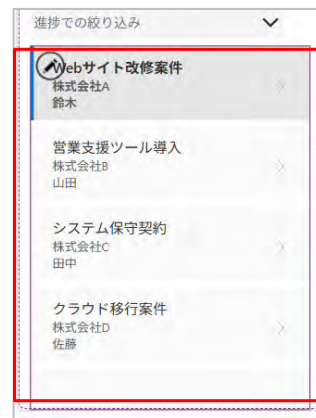
共有・公開

①画面全体の幅修正（スマホ利用前提のカスタマイズ）

外枠



一覧ギャラリー



手順

自動生成アプリでは、ギャラリーの幅（Width）が固定値になっていることがあります。

そのままではスマホで横スクロールが必要になるため、「Width」を「Parent.Width」に変更することで、画面幅に自動調整されるようになります。

また、左右に余白を入れた場合は「Parent.Width * 0.9」と設定することもできます。

1. 外枠を選択し、プロパティ「Width」を以下に変更します。

Parent.Width

2. 一覧ギャラリーを選択し、「Width」を以下のに変更します。

Parent.Width * 0.9

4.5. アプリのカスタマイズ

SharePointリス
ト作成

環境作成

Power Appsで
アプリ作成

アプリの
カスタマイズ

共有・公開

②フォントサイズの調整（スマホ利用前提のカスタマイズ）

タイトル

案件管理台帳

テキスト

Webサイト改修案件

株式会社A
鈴木

営業支援ツール導入

株式会社B
山田

ディスプレイ 詳細設定

Size

30

ディスプレイ 詳細設定

Size

20

Size

13

Size

15

手順

自動生成アプリでは、PC向けに固定幅でレイアウトされるため、スマホ画面で横幅が合わず表示が崩れる場合があります。スマホ前提の場合は「画面タイトル」「ギャラリー内のテキスト」「フォームのフィールド名」を中心に調整する必要があります。

1. タイトルラベルをクリック>プロパティ>[size]を以下の値に変更します。
2. 案件一覧ギャラリー内のテキスト（ここでは案件名）をクリック>プロパティ>「size」を以下の値に変更します。

20

15

*推奨フォントサイズ

タイトル 16～20pt

主要テキスト 14～16pt

補助テキスト 12～14pt

4.5. アプリのカスタマイズ

SharePointリス
ト作成

環境作成

Power Appsで
アプリ作成

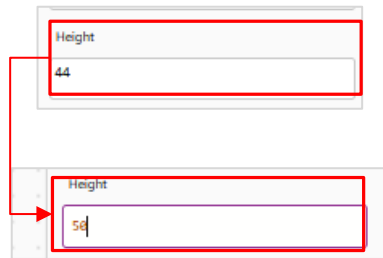
アプリの
カスタマイズ

共有・公開

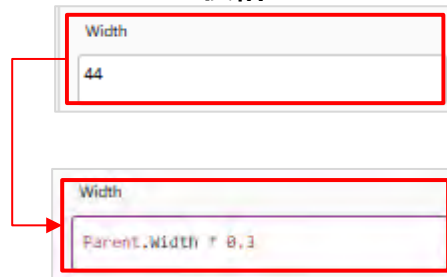
③ボタンの調整（スマホ利用前提のカスタマイズ）



縦幅



横幅



手順

自動生成アプリは、PC を前提に固定幅・固定高さで作られていることが多く、スマートフォンで表示すると操作性や見た目に影響する場合があります。ここではボタンの「横幅（Width）」「縦幅（Height）」「位置(X/Y)」「+」を変更します。

■縦幅

1. 「+」 ボタンをクリック>プロパティ>[Height] 以下の値に変更します。これで縦幅が大きくなり押しやすくなります。

50

■横幅

1. 押しやすさと見た目のバランスを考え、画面幅の 30～50% 程度が目安に、プロパティ>[Width]を 以下の値に変更します。

Parent.Width * 0.3

4.5. アプリのカスタマイズ

SharePointリス
ト作成

環境作成

Power Appsで
アプリ作成

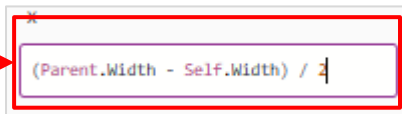
アプリの
カスタマイズ

共有・公開

③ボタンの調整（スマホ利用前提のカスタマイズ）



位置



手順

スマホ利用を前提にする場合は、位置（X / Y）を「数値の固定」ではなく「数式」で指定することで、画面幅や高さに応じて自動的に配置が調整されるように設定します。ここではボタンの中央寄せの設定をしたいと思います。

■位置

1. 「+」 ボタンをクリック> プロパティ> [X]を 以下の値に変更します。これでボタンが中央寄せに表示できるようになりました。（Yプロパティは通常は固定数値で問題ないです）

$(Parent.Width - Self.Width) / 2$

4.5. アプリのカスタマイズ

SharePointリス
ト作成

環境作成

Power Appsで
アプリ作成

アプリの
カスタマイズ

共有・公開

④フィールドの追加・削除

Title	CustomerName
Webサイト改修案件	株式会社A
Owner	Status
佐藤	提案中
NextActionDate	添付ファイル
2025年9月26日	添付されているものはありません

手順

1. ユーザーがアプリをより使いやすくするために、カスタマイズします。
2. 案件の詳細情報の画面において、表示するフィールドを追加したいと思います。
3. フィールド全体を選択した状態で「フィールド」をクリックします。
4. 「+フィールドの追加」をクリックします

フィールド

+ フィールドの追加

4.5. アプリのカスタマイズ

SharePointリス
ト作成

環境作成

Power Appsで
アプリ作成

アプリの
カスタマイズ

共有・公開

④ フィールドの追加・削除

The screenshot shows two side-by-side panels from the SharePoint list customization interface. The left panel, titled 'フィールドの選択' (Select Fields), contains a search bar and a list of field types with checkboxes. The '更新日時' (Last Modified Time) field is selected and highlighted with a red box. At the bottom, the '追加' (Add) button is also highlighted with a red box. The right panel, titled '+ フィールドの追加' (+ Add Fields), displays a list of available fields. The '更新日時' (Last Modified Time) field is at the bottom of this list and is highlighted with a red box.

フィールドの選択

検索

- ☐ フォルダーである
- ☐ フォルダーのパス
- ☐ 名前
- ☐ 完全パス
- ☐ 拡張子付きのファイル名
- ☒ 更新日時
- ☐ 更新者
- ☐ 添付ファイルあり
- ☐ 登録日時

追加 キャンセル

+ フィールドの追加

- ▼ Title
- ▼ CustomerName
- ▼ Owner
- ▼ Status
- ▼ NextActionDate
- ▼ 添付ファイル
- ▼ 更新日時

手順

5. 追加するフィールドの選択肢が表示されます。ここでは「更新日時」を選択し、「追加」をクリックします。
6. フィールドの一番下に「更新日時」が作成されました。

4.5. アプリのカスタマイズ

SharePointリス
ト作成

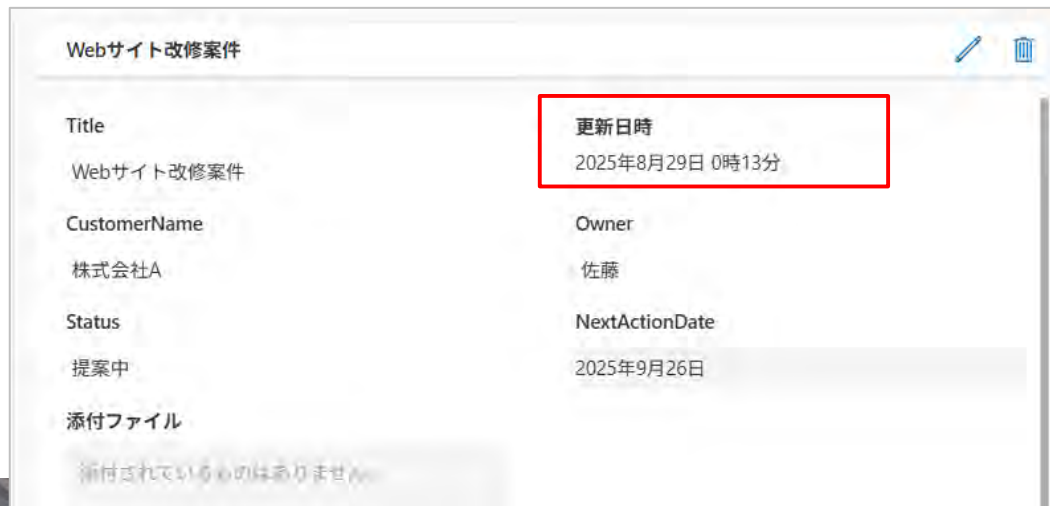
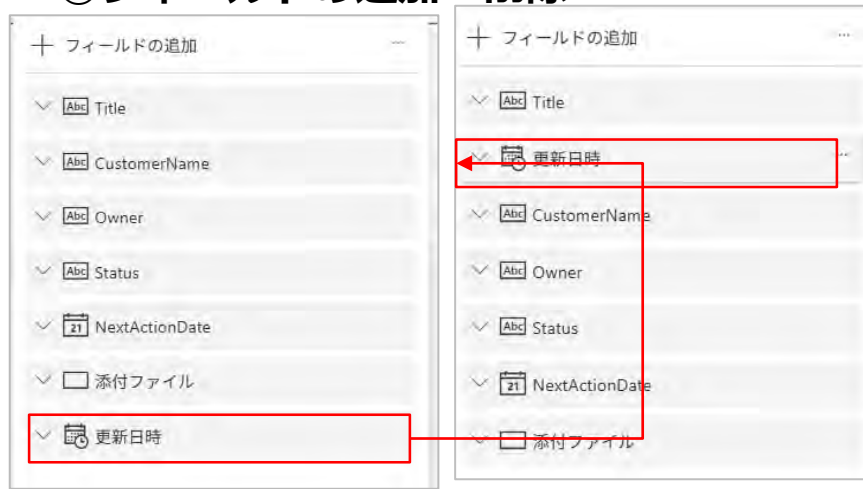
環境作成

Power Appsで
アプリ作成

アプリの
カスタマイズ

共有・公開

④フィールドの追加・削除



手順

7. フィールドの表示順を変更したい場合は、ドラッグ&ドロップで移動が可能です。「更新日時」をクリックしたまま、「Title」の下にドラッグ&ドロップをします。
8. 「Title」の次に「更新日時」のフィールドが追加されていることを確認できます。

4.5. アプリのカスタマイズ

SharePointリス
ト作成

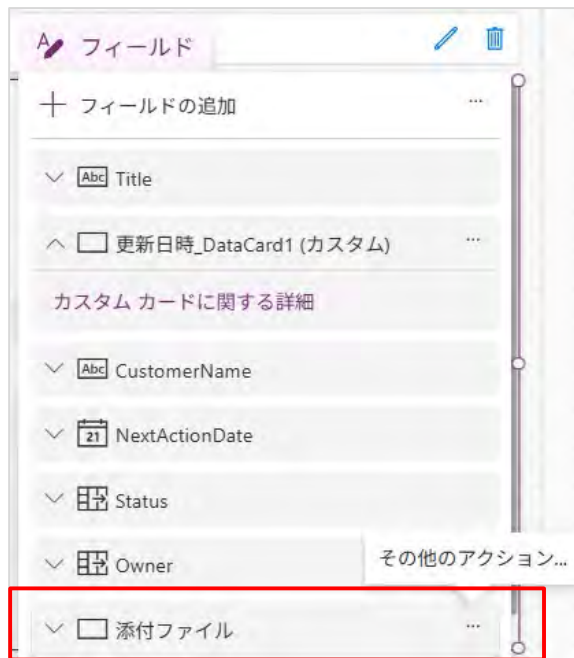
環境作成

Power Appsで
アプリ作成

アプリの
カスタマイズ

共有・公開

④フィールドの追加・削除



手順

9. フィールドの削除を行いたい場合は、「フィールド」>削除したいフィールドの横の三点リーダーをクリックします
10. 「削除」をクリックします。
11. フィールドから「添付ファイル」が削除されました。

Title	更新日時
Webサイト改修案件	2025/08/30
CustomerName	NextActionDate
株式会社A	2025年9月26日
Status	Owner
提案中	鈴木

4.5. アプリのカスタマイズ

SharePointリス
ト作成

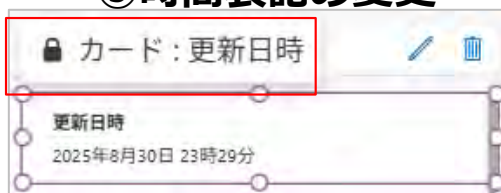
環境作成

Power Appsで
アプリ作成

アプリの
カスタマイズ

共有・公開

⑤ 時間表記の変更



手順

1. 先ほど追加したフィールド「更新日時」はデフォルトでは「yyyy/mm/dd hh:mm:ss」の表示になっています。時間(hh:mm:ss)の情報は不要であるため、日付のみの表示に修正します。
2. 更新日時カードをクリックすると「鍵マーク」アイコンが表示されます。(*)
3. 画面右のプロパティの詳細設定に「プロパティを変更するためにロックを解除します」と記載されているので、これをクリックし、ロック解除を行います。

ロック解除の注意点

PowerAppsをSharePointから自動生成すると、データ連携を維持するため、左のようにグレーアウトとなってプロパティにロックがかかります。これは意図しない変更を防ぐための安全策です。カスタマイズのためにはロックを解除する必要がありますが、数式が正しく機能しなくなる可能性があるため、数式を理解した上で変更行う必要があります。

4.5. アプリのカスタマイズ

SharePointリス
ト作成

環境作成

Power Appsで
アプリ作成

アプリの
カスタマイズ

共有・公開

⑤ 時間表記の変更

プロパティ

カード

更新日時_DataCard1

ディスプレイ 詳細設定

"Modified"

Default

ThisItem.更新日時

Default

Text(ThisItem.更新日時, "yyyy/mm/dd")

更新日時

2025/08/30

手順

4. カードのロック解除を行ったら、プロパティの「詳細設定」の [Default] の値を以下のように変更します

```
Text(ThisItem.更新日時, "yyyy/mm/dd")
```

5. 更新日時が、日付だけの表示に変更されました。

4.5. アプリのカスタマイズ

SharePointリス
ト作成

環境作成

Power Appsで
アプリ作成

アプリの
カスタマイズ

共有・公開

⑥一覧画面でのフィルター機能追加



手順

1. 案件の一覧画面では全ての案件が表示されているので、進捗（ステータス）でフィルタリングして表示できるようにします。
2. 「挿入」>[入力]>「コンボボックス」をクリックします
3. 案件一覧の一番下に追加されました。

4.5. アプリのカスタマイズ

SharePointリス
ト作成

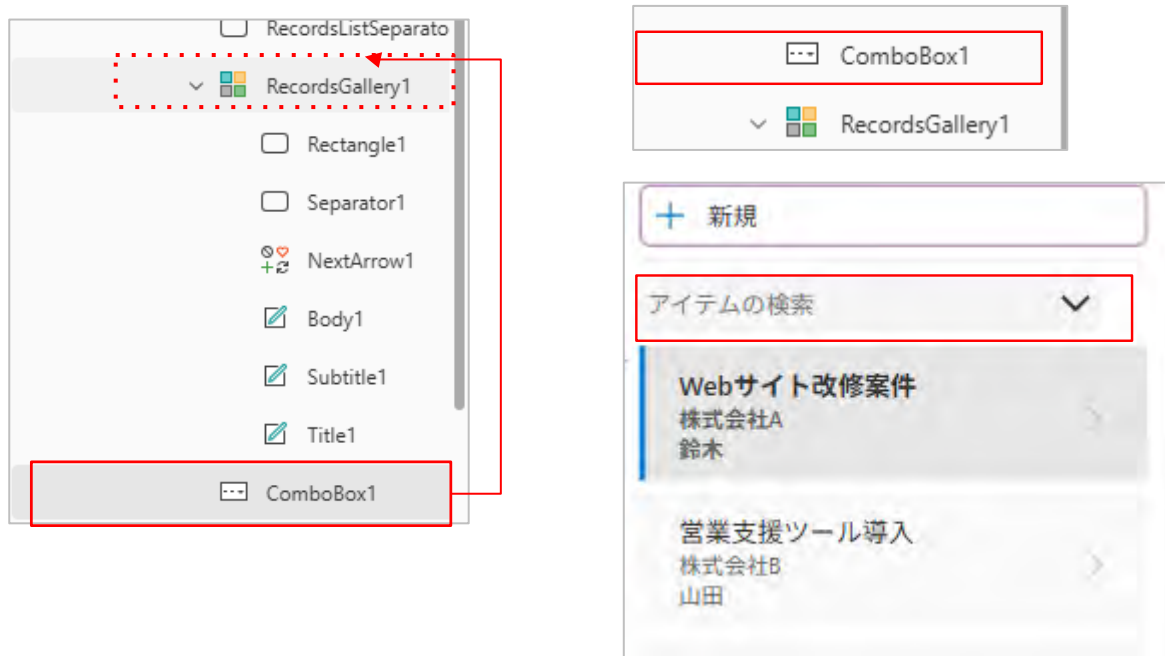
環境作成

Power Appsで
アプリ作成

アプリの
カスタマイズ

共有・公開

⑥一覧画面でのフィルター機能追加



ツリービューの名称変更について

Power Appsでツリービューのアイテム名称は、分かりやすい名前に変更することが推奨されます。デフォルトのままでは「CombBox1」「Gallery2」など役割が分かりにくく、後から編集するときに混乱しやすいからです。名前を「顧客名入力」や「案件一覧ギャラリー」のように変えておけば、数式も理解しやすくなり、保守やチームでの作業もスムーズになります。

手順

- 画面左側にナビゲーション（ツリービュー）があります。ここではアプリ内のすべての画面、コンポーネントが階層的に表示されるため、アプリの構造を一目で把握できます。UIのカスタム（画面上の配置変更）は、ツリービューを操作して変更します。ツリービューを見ると、RecordGallery1(案件一覧ギャラリー)の下にコンボボックスが位置しているので、RecordGallery1の上にドラッグ&ドロップで移動させます。
- 実際にコンボボックスが一覧ギャラリーの上に移動したことを確認します。

4.5. アプリのカスタマイズ

SharePointリス
ト作成

環境作成

Power Appsで
アプリ作成

アプリの
カスタマイズ

共有・公開

⑥一覧画面でのフィルター機能追加

プロパティ

コンボ ボックス ⑦

ComboBox1

ディスプレイ 詳細設定

["Value1"]

InputTextPlaceholder

"アイテムの検索"

InputTextPlaceholder

"進捗での絞り込み"

+ 新規

進捗での絞り込み

Webサイト改修案件

手順

コンボボックスの表示がデフォルトで「アイテムの検索」と表示されているので、わかりやすいように「進捗での絞り込み」に変えます。

6. コンボボックスを選択した状態で、プロパティ> 詳細設定> [InputTextPlaceholder]を以下のように変更します。

“アイテムの検索” → “進捗での絞り込み”

7. コンボボックスの表示名が、[アイテムを検索]、から[進捗での絞り込み]に変わりました。

4.5. アプリのカスタマイズ

SharePointリス
ト作成

環境作成

Power Appsで
アプリ作成

アプリの
カスタマイズ

共有・公開

⑥一覧画面でのフィルター機能追加



手順

8. 次に進捗で絞り込みができるように設定をします。
SharePointリスト「案件管理台帳」の列「Status」に設定されている 選択肢（Choice列の値）をすべて取得する関数をいれたいと思います。
9. コンボボックスを選択した状態で、プロパティ＞詳細設定＞[Items] を以下のように変更します。

Choices(案件管理台帳.Status)
10. これでSharePoint の選択肢列「Status」の一覧（提案中 / 見積もり中 / 受注 / 失注）が出ます。

4.5. アプリのカスタマイズ

SharePointリス
ト作成

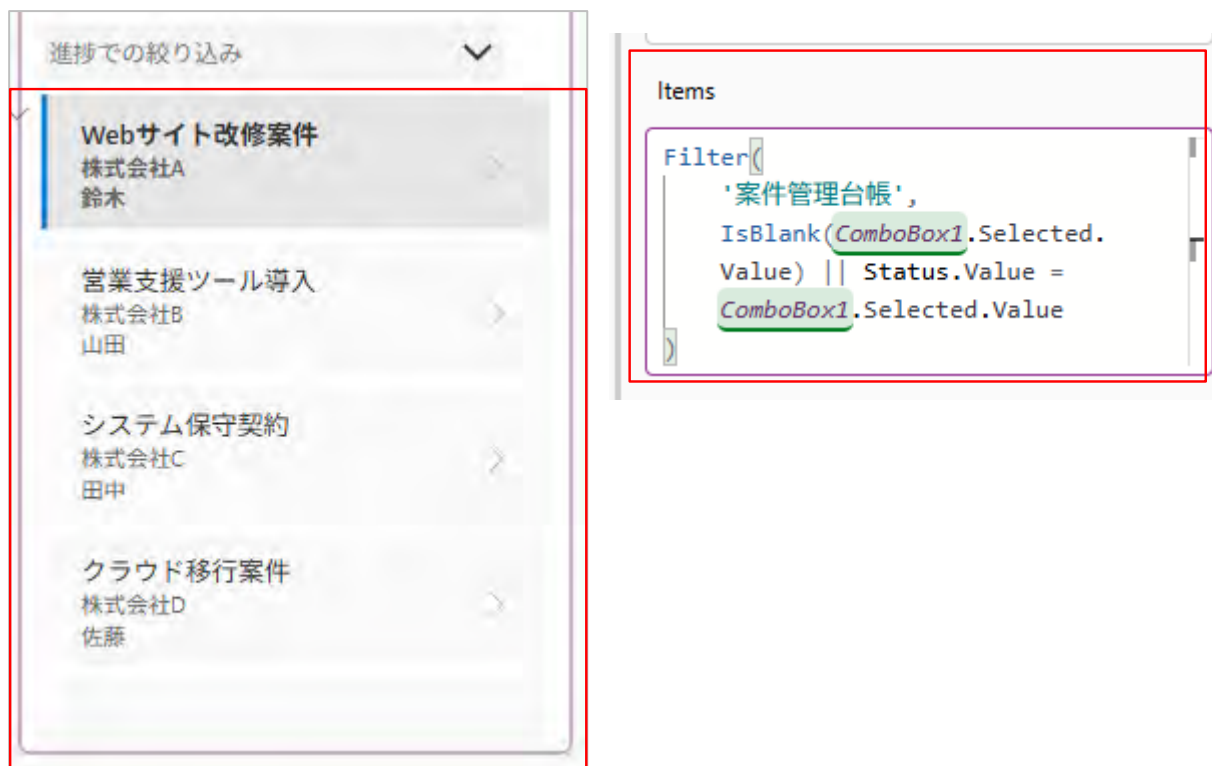
環境作成

Power Appsで
アプリ作成

アプリの
カスタマイズ

共有・公開

⑥一覧画面でのフィルター機能追加



手順

11. 次にユーザーがコンボボックスで案件のステータスを選ぶと、その条件で案件リストを絞り込んで表示するようコードを入力します
12. コンボボックスを選択した状態で、プロパティ> 詳細設定> [Items] を以下のように変更します。

```
Filter(  
    '案件管理台帳',  
    IsBlank(ComboBox1.Selected.Value) ||  
    Status.Value = ComboBox1.Selected.Value
```

コンボボックスでステータスを選ぶと、そのステータスの案件だけを表示されます。（未選択なら全件を表示されます）

4.5. アプリのカスタマイズ

SharePointリス
ト作成

環境作成

Power Appsで
アプリ作成

アプリの
カスタマイズ

共有・公開

⑥一覧画面でのフィルター機能追加



手順

13. プレビュー画面で確認します。「進捗での絞り込み」をクリックします
14. SharePointリストで設定していたStatusの選択肢が表示されるので、「失注」を選択します。
15. 選択したStatusの案件のみが絞り込まれて一覧に表示されました。

4.5. アプリのカスタマイズ

SharePointリス
ト作成

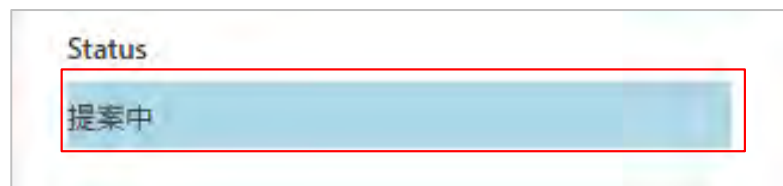
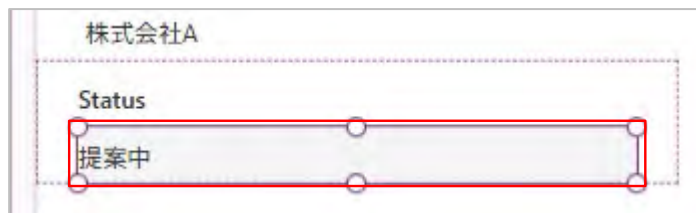
環境作成

Power Appsで
アプリ作成

アプリの
カスタマイズ

共有・公開

⑦ラベルの背景色・文字色の変更



手順

1. 詳細の閲覧画面にて、Statusの進捗に応じて、背景色や文字色を変更し、一目でステータスが分かるようにします。
2. 表示されているStatusカードをクリックし、プロパティ> 詳細設定> [fill] に 値に応じて結果を返すコードをいれます。

```
Switch(  
    ThisItem.Status.Value,  
    "提案中", Color.LightBlue,  
    "見積もり提出", Color.LightGreen,  
    "失注", Color.LightGray,  
    "受注", Color.Yellow,  
    Color.White // デフォルト色  
)
```

3. 背景色がコードで指定した色に変わりました。

4.5. アプリのカスタマイズ

SharePointリス
ト作成

環境作成

Power Appsで
アプリ作成

アプリの
カスタマイズ

共有・公開

⑦ラベルの背景色・文字色の変更

The screenshot shows the Power Apps interface with two panels. The left panel, titled 'プロパティ' (Properties), shows the 'DataCardValue4' control with tabs for 'ディスプレイ' (Display) and '詳細設定' (Advanced). The 'Color' property is set to 'RGBA(50, 49, 48, 1)'. The right panel, titled 'ディスプレイ' (Display) and '詳細設定' (Advanced), shows the 'Color' property set to a 'Switch' statement. Below the panels, a preview of the 'Status' label is shown with the text '提案中' (Proposal) on a blue background.

プロパティ

コンボボックス ⑦

DataCardValue4

ディスプレイ 詳細設定

Color

RGBA(50, 49, 48, 1)

ディスプレイ 詳細設定

Color

Switch

ThisItem.Status.Value,
"提案中", Color.Blue,
"見積提出", Color.Green,
"失注", Color.Black,
"受注", Color.Yellow,
Color.Gray // デフォルト

Status

提案中

手順

4. 背景色と同様に文字色も変えます。前項と同じくstatusカードをクリックし、プロパティ>詳細設定>[color]に以下のようなコードを入力します。

```
Switch(  
    ThisItem.Status.Value,  
    "提案中", Color.Blue,  
    "見積提出", Color.Green,  
    "失注", Color.Black,  
    "受注", Color.Yellow,  
    Color.Gray // デフォルト  
)
```

5. コードで指定した色に、文字色が変更されました。

4.5. アプリのカスタマイズ

SharePointリス
ト作成

環境作成

Power Appsで
アプリ作成

アプリの
カスタマイズ

共有・公開

⑧書式変更



手順

ラベル「案件管理台帳」の書式を変更します。

1. ラベル「案件管理台帳」をクリックし、プロパティ > 詳細設定 > [Font] に数字を入力します。ここでは以下の書式に設定しました。

Font.'Segoe UI'

2. [案件管理台帳]のフォントが変わりました。

案件管理台帳

4.6. 共有・公開

SharePointリス
ト作成

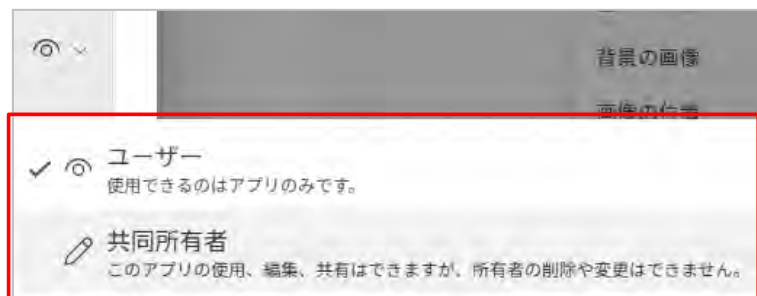
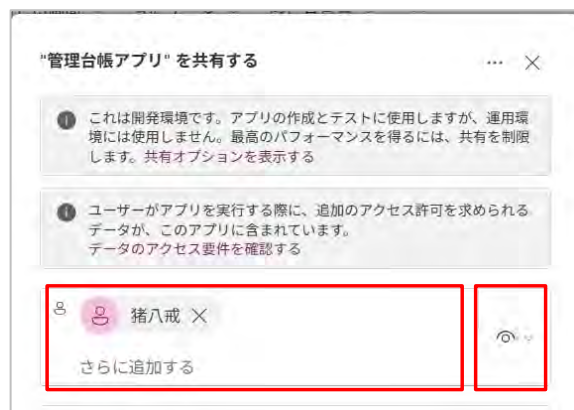
環境作成

Power Appsで
アプリ作成

アプリの
カスタマイズ

共有・公開

①共有



手順

1. アプリを一緒に作成・編集するメンバーに、権限を付与し共有をします。
2. アプリ>三点リーダー>共有をクリックします。
3. 共有したいメンバーやグループを入力します。
4. 右のアイコンをクリックすると、「ユーザー」もしくは「共同所有者」を選択できるようになっていますので、どちらか選択します。ここでは「共同所有者」を選択します。

権限の種類

■ユーザー

- ・アプリ利用者の権限です。
- ・アプリ内でデータの閲覧や入力・更新などができます。

■共同所有者

- ・アプリの共同作成者の権限です。
- ・アプリの保存や、アプリ画面や数式の編集などが行えます。

4.6. 共有・公開

管理者画面

SharePointリス
ト作成

環境作成

Power Appsで
アプリ作成

アプリの
カスタマイズ

共有・公開

① 共有

▶ 共有

次のユーザーと「管理台帳アプリ」を共有しまし
た



リンクをコピーする



アクセスを管理
する



リンクをコピ
ーする

＜ アクセスを管理する



ユーザー + グループ・2 保留された招待・0 件 追加のデータ アクセス許可

アクセス許可を付与する



Q ユーザーを検索します



名前 ↑

アクセス



管理太郎

所有者



猪八戒

共同所有者



手順

- 「共有」ボタンをクリックすると、[次のユーザーと「管理台帳アプリ」を共有しました]と表示されます。
- 現状のアプリのアクセス管理の状況を確認します。画面右上の「共有」ボタン＞「アクセスを管理する」をクリックします。
- 先ほど追加したユーザーが、共同所有者として登録されていることを確認できました。

4.6. 共有・公開

共有を受けたユーザー画面

SharePointリス
ト作成

環境作成

Power Appsで
アプリ作成

アプリの
カスタマイズ

共有・公開

①共有



手順

8. 実際に共有を受けたユーザーにてPower Appsアプリにアクセスしました。
9. デフォルトでは「読み取り専用」となっています。右上に同じアプリで作業している他のユーザーを示しますが、一度にアプリを編集できるのは1人だけです。アプリを最初に開いたユーザーに編集制御が与えられます。
10. また、ここからそのユーザーへメールやTeamsでチャットを開きメッセージを送ることもできます。

SharePointリス
ト作成

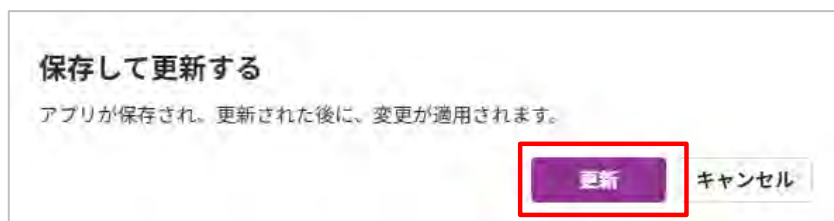
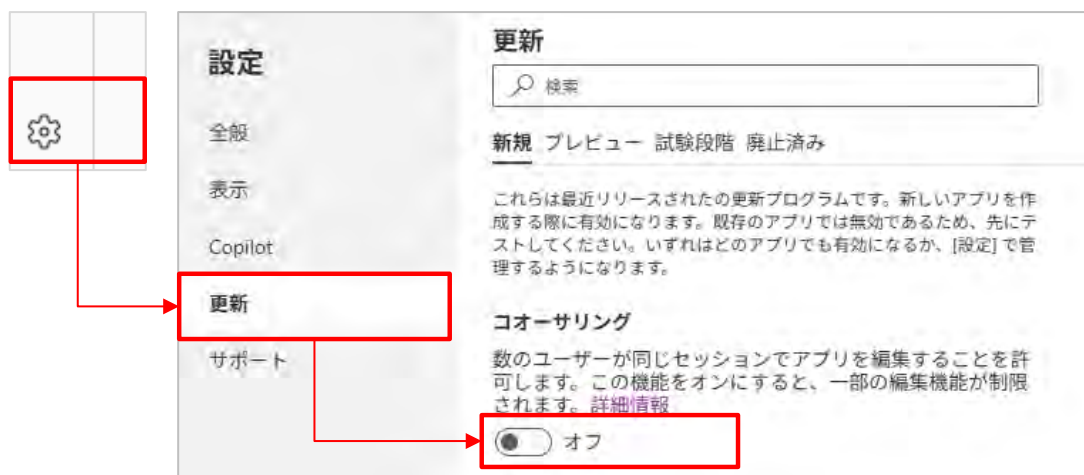
環境作成

Power Appsで
アプリ作成

アプリの
カスタマイズ

共有・公開

②共同作業権限設定



手順

共有したユーザーと共同して編集作業を行いたい場合、共同作成の設定を行います。この設定はアプリ単位での設定となります。

1. アプリ画面左下の「設定」アイコンをクリックします。
2. 設定画面 > [更新] > [コオーサリング] を[オン]にします
3. 保存して更新するで「更新」をクリックします。
4. アプリが保存され、再度立ち上がります。

4.6. 共有・公開

共有を受けたユーザー画面

SharePointリス
ト作成

環境作成

Power Appsで
アプリ作成

アプリの
カスタマイズ

共有・公開

②共同作業権限設定



手順

5. 再度共有を受けたユーザー側でアプリにアクセスすると、「読み取り専用」から「編集」に変更され、編集可能な状態になっています。
6. 他にアプリを開き作業をしているユーザーが、今どこの箇所を作業（クリック）しているのかを確認することができます。

4.6. 共有・公開

SharePointリス
ト作成

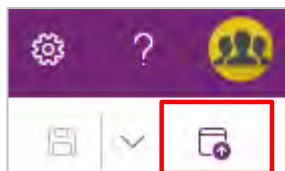
環境作成

Power Appsで
アプリ作成

アプリの
カスタマイズ

共有・公開

③公開



公開

このバージョンのアプリを環境 管理者 で公開します。
[公開についての詳細](#)

アプリのパフォーマンスを改善させるために、アプリ データがブラウザー ストレージ にローカルに保存され、一部のアプリ資産がユーザーの認証を待たずに読み込まれる場合があります。
[詳細情報](#)

アプリのアイコンと名前

 案件台帳アプリ

説明

エンドユーザーがアプリを見つけて使用する際に役立つ説明を提供します。

アプリの機能を簡単に説明します

[このバージョンの公開](#) [詳細の編集](#)

手順

1. アプリの作成、プレビューでの動作確認が終わったらアプリを公開します。作成者（または共同所有者）が アプリを公開して初めて、ユーザー権限を持つ人がそのアプリを閲覧・利用できるようになります。公開させたいユーザーの追加はスライド48の手順にて、[ユーザー]または[共同所有者]を追加しておきます。
2. 画面右上の「公開」ボタンをクリックします。
3. 注意書きが表示されます。いまのバージョンでの公開で問題がなければ「このバージョンの公開」をクリックします。
4. 公開後、共有済みのユーザーは Power Apps モバイルアプリやブラウザから 最新バージョン を利用することができます。